合志市社会福祉協議会　このみざかほいくえん

7月　ほけんだより

R1.7.5　看護師　宮原博子

お天気と一緒で、なんとなく気分もどんよりしてしまいがちですが、子ども達も心が弾む夏がすぐそこまできています。お天気が良ければ額に汗をかきながら、元気いっぱいに虫を探したり、お友だちと駆け回ったり…。元気いっぱいに見えていても、実は身体は意外と疲れています。おうちではゆったりと過ごせるように心がけてくださいね☆

気をつけよう！夏にはやる病気

夏に気をつけたい感染症。代表的な３つについて、主な症状を挙げてみました。気になる症状が見られたら、すぐに病院へ！

ヘルパンギーナ

高熱とのどの痛み。特にのどは、水ほうや潰瘍ができるため、かなり痛む（乳児はミルクが飲めないほど）。

アデノウイルス感染症

（咽頭結膜熱）

高熱とのどの痛みのほか、目の痛み・かゆみ・充血など、結膜炎のような症状がでる。

手足口病

手のひらや足の裏、口の中に小さな発しんや水ほうができ、熱が出ることも。

かゆみのある湿しんは「とびひ」かも

虫刺されや湿しんなどで傷ついた肌を汚れたつめでひっかくと、傷口に細菌が感染して**「とびひ（伝染性膿痂疹）」**になります。**うみをもったような水ほうができ、強いかゆみが出ます。**かゆいからといってひっかくと大変！　水ほうが破れて中の液が付いた所に、とびひがどんどん広がってしまうのです。水ほうを見つけたら、つめでひっかかないようにガーゼで覆い、受診しましょう。

とびひの時の登園・・・

受診後、適切な薬を塗布し病巣がガーゼで覆える範囲であれば登園が可能です。

夏の水分補給

人は汗をかくことで、体温調節をしています。体内の水分が不足すると、汗を出せず、体温が上がってしまいます。特に子供は脱水症状を起こしやすいので注意が必要です。

こまめな水分補給をおこないましょう！！！

６月の感染症状況

そよかぜ　　ヘルパンギーナ　　１名以上